

令和元年度老人保健健康増進等事業

地域包括ケアにおける北海道版「住」のまちづくりに関する調査研究事業

一般社団法人北海道総合研究調査会

1 目的

<目的>

現在50～60歳代を主な対象として、積極的な住み替えとコミュニティづくりを促すため、ICT活用型の住まいを整備するとともに、健康づくり・介護予防の仕組みおよび、在宅医療・介護へのアプローチをやすくする仕組みづくりについて検討を行う。

北海道沼田町をモデル地域とし、ICTを活用した健康増進・予防・見守り等を促進するための実証実験を行い、それらの成果を沼田町が整備検討中の高齢者住宅整備プランに反映するよう提案する。

2 事業概要

(1) 町民の健康増進及び予防に向けた仕組みの詳細設計と実証実験

奈良県立医科大学 MBT（医学を基礎とするまちづくり）研究所の協力の下で、沼田町在住のシニア層（主として50～60代）21名を対象に、ICを活用した実証実験を実施した。ウェアラブルウォッチ（腕時計型生体センサー）等を配布、各人の健康データを取得して変化を分析し、健康を総合的に評価する指標（スコア）を導出した。

実証実験の参加者に対しては、各人の健康状態やその傾向及び今後の健康増進に向けたアドバイス等をフィードバックするとともに、実証実験の成果・課題を整理し、今後の取組の方向性を整理した。

(2) 沼田モデルの横展開に向けた「視察会」の実施

沼田町における取組に関心を有する道内自治体（4町村）を発掘し、沼田町において実証実験の視察会を開催した。

(3) 先進的取組事例の視察・調査

住まいの整備と事業構造、コミュニティと交流に関わる場やしかけなどに着目し、参考となる事例として「オークフィールド八幡平」（サ高住、岩手県八幡平市）の視察調査を行ったほか、他の事例を調査し、とりまとめを行った。

(5) 「住」の概念整理

各種調査や実証実験の結果を参考に、沼田町が計画中的高齢者向け住宅の整備にあたり、留意すべき点について提案を行った。

(6) 研究成果・課題・提案のとりまとめ

本調査研究を通じて得られた研究成果及び今後に向けた課題を整理するとともに、課題に対応するための具体的な方策について提案を行った。

(7) 研究会の組成と運営

研究者・有識者、医療・福祉・まちづくり分野、建築、ICTの各分野に精通した関係者をメンバーとする調査研究会を組成し、計3回研究会を開催、議論した。